

平成 30 年 2 月 26 日

株式会社 市民風力発電

代表取締役 鈴木 亨 様

ふるさと自然の会  
会長 川内野善治

黒髪町木場山付近に建設予定の風力発電の建設は、市民の憩いの場となっている九州自然歩道を分断し、させば景観 100 選で選ばれた「烏帽子岳からのながめ」と「烏帽子岳の自然」を全て失います。また、この山域は渡り鳥のハチクマ・アカハラダカなどの猛禽類の、国内のみならずアジアの重要な渡りのコースとなっており、これらに与える影響も計り知れません、このような計画を実行しないように強く求めます。

## 記

### 1、保安林の解除による森林機能低下の恐れ

風力発電施設建設の計画では保安林も含まれています。保安林は、水源の涵養・土砂の崩壊その他の災害の防備・生活環境の保全・形成等、特定の公益目的を達成するため、農林水産大臣又は都道府県知事によって指定される森林です。

保安林は、それぞれの目的に沿った森林の機能を確保するため、立木の伐採や土地の形質の変更等が規制されており、近年の局地的大雨による被害を見ると、地域の災害の危険を増すような計画を立てるべきではありません。

### 2、国立公園区域に入っている烏帽子岳園地からの眺望の阻害

木場山の風力発電施設建設予定地は、烏帽子岳のアカハラダカ観察地から約 3 km 前後と至近の地点であり、巨大な風車が出現すると、国立公園の烏帽子岳園地からの眺望が阻害されます。環境省のガイドライン「風力発電施設の審査に関する技術的ガイドライン」によると垂直見込角が  $1^{\circ}$  ~  $2^{\circ}$  が景観的に気になりだす可能性があるとしてされる目安と記載されています。

木場山の風力発電施設はブレードまで入れると高さ 140m であり、烏帽子岳園地からの眺望で垂直見込み角が  $3^{\circ}$  となり、しかもスカイラインから突出することになり、眺望を著しく阻害することになります。

### 3、烏帽子岳のタカ類の渡りへの悪影響

烏帽子岳では日本野鳥の会長 崎県支部が長年定点観察を続けており、タカの渡りネットワーク (<http://www.gix.or.jp/~norik/hawknet/hawknet>) に掲載されています。2016 年 9 月を見るとアカハラダカ 19,790、ハチクマ 324、サシバ 23、ノスリ 6、ツミ 3、ハイタカ 5 の他にチゴハヤブサ、オオタカ、ミサゴ、チョウゲンボウなどが記録されています。

なお、烏帽子岳では秋のタカの渡りの観察に全国から多数の野鳥マニアが訪れ、しかも全国的に有名な観察地となっており、これを支えている舞台は隠居岳から木場山、烏帽子岳に連なる尾根沿いなのです。

全てのタカ類が南下する際には、隠居岳→木場山→烏帽子岳への順に飛んできます。尾根筋に発生する上昇気流を利用して飛翔するため、この尾根に風力発電機建設すると、タカ類のバードストライクが極めて多く発生することは明白です。

貴社が、風力発電機を建設すると全国的に重要な渡りのルートを壊してしまうことになり、大きな批判を受けることでしょう。

なお、下表は隠居岳→木場山→烏帽子岳を通過し、希少種に選定されているタカ類のカテゴリーです。

通過しているタカ類	環境省カテゴリー	長崎県カテゴリー	佐世保市カテゴリー
オオタカ		絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧ⅠB類
サシバ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧ⅠA類
チョウゲンボウ			準絶滅危惧
ハイタカ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
ハチクマ	準絶滅危惧	準絶滅危惧種	準絶滅危惧
ハヤブサ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危惧ⅠA類

最後に、烏帽子岳は市内の学校の19校の校歌で歌われていますが、これは景観100選にもつながっています。兎に角烏帽子岳一帯は市民にとって特別な意味を持っています。

佐世保市民が大切にしているものを、壊してしまうような事業をすべきではありません。

以上

ふるさと自然の会 会長 川内野善治 〒859-6405 佐世保市世知原町開作 427 TEL/FAX 0956-78-2865
--